

令和 8 年度 公益財団法人山形市文化振興事業団事業計画

1 山寺芭蕉記念館

(1) 展示事業

①特別展「芭蕉と江戸ワンダーランド ―芭蕉文学を生んだ江戸時代の魅力―」

(10月16日～11月30日)

俳人松尾芭蕉の感性を育んだ江戸時代の俳諧などの文学、絵画・工芸などの美術を紹介すると共に、江戸時代の社会の様子や旅の実態を明らかにすることにより、芭蕉文学の理解につなげる展示とする。

②企画展「芭蕉と江戸時代の俳人たち ―貞門から芭蕉・蕉村まで―」

(4月10日～7月13日)

江戸時代の前期から後期までの俳人の作品を展示して、俳諧の変遷を紹介する。俳諧勃興期の貞門から、芭蕉の登場とその一派蕉門の発展、その後の俳諧中興期の与謝蕪村やそれ以後など、江戸時代の俳壇を概観することのできる資料で構成する。

③企画展「もののけものがたり ―文学・美術に見る妖怪の歴史―」

(7月17日～9月7日)

江戸時代から現代まで、文学や伝説の中で語り伝えられてきた妖怪(もののけ)をテーマとした展示を行う。松尾芭蕉の『奥の細道』や歴史資料、江戸時代から現代までの絵画作品などを公開し、妖怪を媒体として表現された日本文化に焦点をあてる。

④企画展「館長おすすめセレクション ―山寺芭蕉記念館の収蔵名品―」

(9月11日～10月12日)

収蔵品の中から名品を選びすぐって公開する。芭蕉や蕉門だけでなく、幅広い分野の作品群が寄贈された④長谷川コレクションや^{えぼら}頼原退蔵・尾形^{つとむ}コレクションなどからも重要な作品を選び、室町時代から現代にかけての書画の優品を展示する。

⑤企画展「芭蕉の周辺と蕉門 ―芭蕉と江戸俳壇―」

(12月5日～2月15日)

芭蕉が師事した人や弟子などの作品を展示し、芭蕉やその門弟たちであ

る蕉門が同時代や後世に与えた影響を紹介し、芭蕉文学を理解するための機会とする。

⑥企画展「お雛さまの美 ―山形に伝わる“桃の節句”の飾り―」

(2月19日～4月5日)

江戸時代の雛人形を中心に展示し、雛人形や桃の節句の歴史を紹介するとともに、雛人形に用いられた紅花染めにも注目した展示を行い、日本文化の美を考える機会とする。

(2) 普及啓発事業

①第69回全国俳句山寺大会（7月12日）

俳句の普及と振興をはかるため、山寺文化保存会と共催し、名勝山寺の地で、芭蕉が訪れた時期に句会を開催する。

②第18回山寺芭蕉記念館英語俳句大会（7月）

英語俳句を通して俳句の更なる交流促進、俳句文化の国際交流をはかるとともに、英語教育や文化に寄与することを目的とする。

③第57回芭蕉忌俳句大会（10月18日）

俳句の普及と振興をはかるため、山形県俳人協会と共催し、山寺の地で芭蕉を偲び句会を開催する。

④第33回山寺芭蕉記念館文化セミナー（9月～10月頃）

広い視野で日本文化と歴史を見つめる講座を開設し、市民文化の向上をはかるとともに新たな視点を提示する。複数回連続講座。

⑤奥の細道マイスター養成講座（秋頃）

当館ボランティアガイドを育成する講座を「奥の細道マイスターの会」と連携して開催し、ボランティアガイドと協力して展示説明の充実をはかる。

⑥芭蕉を偲んで投句しよう 一般の部・小中学生の部（通年）

俳句の普及をはかるため、山寺芭蕉記念館内に投句箱を設置し、投句選を行う。

⑦市民茶会

抹茶または煎茶の呈茶を行ない、茶道作法など、茶道文化の啓蒙普及をはかる。

⑧茶房 芭蕉堂（通年、但し市民茶会開催日を除く。）

抹茶の呈茶を行ない、茶道文化に親しむ一助とする。

⑨山寺感謝の茶会（11月23日）

山寺地区民に対し、平素から山寺芭蕉記念館の事業に理解と協力を頂いていることへの感謝の意を表して呈茶を行い、茶の湯に親しむ機会とする。

⑩ICTを活用した情報発信

インターネットを媒体として、ホームページやSNS（フェイスブック・インスタグラム等）を活用して、広報活動や松尾芭蕉・山寺などに関する情報を積極的に発信する。また、インバウンドの推進による外国人旅行者の増加に対応するため、フリーWi-Fiの活用による収蔵品の説明の多言語化など、わかりやすい情報発信に取り組む。

⑪『山寺芭蕉記念館だより』〔年1回〕

事業の予告や報告、芭蕉及び「奥の細道」に関する情報の提供を行ない、山寺芭蕉記念館の活動の周知に役立てる。

(3) 調査研究事業

①収蔵資料デジタルアーカイブ化事業

当館所蔵の収蔵資料のデジタルアーカイブに向けた作業を継続して行い、情報の発信に役立てる。

2 最上義光歴史館

(1) 展示事業

①企画展

1) 「(仮称) 発掘された山形市の遺跡」(7月8日～9月27日)

公益財団法人山形県埋蔵文化センターと共同開催する展覧会。埋蔵文化財センターがこれまで発掘調査した山形市内の遺跡について出土品を展示し、古来の当地域に暮らした人々の様子を紹介する。最上氏在城時代の遺跡や山形城関連遺跡からの出土品等も紹介する。

2) 「シン・市民の宝モノ 2027」展 (1月14日～3月28日)

山形市民を対象に、秘蔵する「宝モノ」を募集して、歴史館で選考して展示し、広く一般に公開する。テーマは外国人観光客も楽しめるもので、参加型の展覧会を開催することで、施設活動に対する山形市民の関心を高め親しめるものとする。

※継続企画

②常設展

最上義光を主とした最上家関係資料と山形城関係資料、山形に関わる文化財などを展示紹介しながら、下記のテーマ展示を行う。

1) 展示1 「鉄の美 2026『出羽の三名人』と現代の匠」

(4月2日～7月5日)

武器であり美術工芸品でもある日本刀の魅力を紹介する。収蔵刀剣(寄託資料含む)から、武士との係りがわかる刀剣を選定して展示し、エピソードを交えながら紹介する。

2) 展示2 「(仮称) 収蔵名品展 一合戦図一」(10月1日～1月11日)

収蔵資料から最上家関係資料や山形ゆかりの文化財の名品を展示紹介する。

3) 特別公開 山形市指定有形文化財指定記念「徳島里見家旧蔵 最上家関係文書」

(4月28日～8月30日)

令和7年9月に山形市に寄贈された98点の資料のうち最上家関係文書6点が山形市指定有形文化財に指定されたことをうけて、その文書を特別公開する。

(2) 普及啓発事業

①歴史講座

1) こども講座

小学生を対象に最上義光を学ぶ機会をつくることによって、郷土史に対する関心と理解を深め、愛郷心の育成を図る。

②ボランティアに係わる事業

最上義光の啓発のため、来館者への案内や説明などのサービス提供を担うボランティアによる歴史館のサポーターで組織する市民団体「義光会」を支援する。

1) 「義光塾」〔年3回〕

最上義光や郷土の歴史について多角的に学習して、来館者に対して幅広い知識で説明が可能となるようにスキルアップを図る。

2) 「現地研修会」〔年1回〕

最上家や郷土の歴史に関する史跡等について、現地に赴き視察研修することによって、ボランティアの郷土史と文化財に対する理解を深め、来館者に対してより質の高い説明ができるようにスキルアップを図る。

③ICTに係わる企画と情報管理

ホームページを活用して様々な情報を発信するとともに、企画から物販まで幅広く展開する。展示事業とリンクさせて、映像をはじめとする様々な情報をICTに係わる媒体を介して提供し、最上家や郷土の歴史、山形の文化遺産等の啓発も行う。また、インバウンドへの対応や文化観光の推進のため、多言語化やフリーWi-Fiの有効な活用を行うとともに、山形城御城印の販売も引き続き扱う。

④『歴史館だより』〔年1回〕

歴史館の事業報告や、山形の歴史や最上家に関する研究や考察などの最新情報を年刊紙面にて広く提供する。ICT事業にリンクさせ、ホームページからのダウンロードを可能とする。

(3) 調査研究事業

①最上家関係資料・史跡調査〔継続事業〕

県内外に残る最上家等に関わる文書資料や文化財・史跡などの調査研究

を進め、写真撮影等による記録保存及び目録作成、複写等の資料整備を行う。

②収蔵資料デジタルアーカイブ化事業〔継続事業〕

当館所蔵の収蔵資料の台帳整備とデジタルアーカイブに向けた電子化作業を行い、資料の有効保存と情報の発信を目指す。